

# 全世代型社会保障の 意義とは

竹村 仁司議員



生き方を自ら選択し尊重される社会に  
保険福祉部長

**問** 全世代型社会保障について、その意義と取り組みは。

**答** 意義は、国民一人ひとりが互いにリソースを備え合い、社会に参加する個人として、それぞれの生き方を自ら選択することができ、その生き方が尊重される社会をつくることにある。

取り組みは、大きく子育て支援の充実、働き方に中立的な社会保障制度等の構築、医療・介護制度の改革、地域共生社会

の実現の4点。

**問** 1人の高齢者にかかる介護や医療費の抑制、できる限り健やかに快適な日常生活を実現することの積上げは。

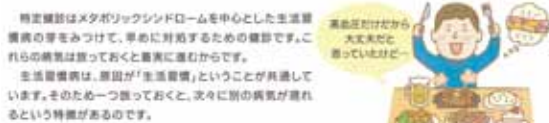
**答** 生涯現役で活躍できる社会づくりの推進の環境として、令和5年度から介護保険の地域支援事業や国民健康保険の保健事業を一体的に実施する高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を取り組んでいく。

**問** 後期高齢者医療における健康課題など、本市の特徴にあわせた保健事業と介護予防の一体的実施とは。

**答** 高齢者の心身の多様な課題に対して、特性を踏まえたきめ細やかな支援を実施するための制度である。市の後期高齢者医療における医療費全体に占める疾病別の割合は、多い順に人工透析を伴う慢性腎臓病、糖尿病、不整脈、骨折であり、高齢者の課題として取り組む必要がある。また、高額な医療費や重度の後遺症等につながる疾患を防ぐため、保健指導や医療機関への継続受診勧奨を個別に働きかける。

して受診案内や保健指導、受診の確認を個別で行い、必要な医療へつなげることで、病気の重症化の予防、高額な治療を予防する取り組みを行ってきた。そのような国保保健事業の取り組みが高く評価され、財源である保険者努力支援交付金が、平成30年度の約1600万円から令和3年度には約3千万円と増額された。

## 特定健診は将来の介護や長期入院、思わぬ発作の芽を摘む。



生活習慣病が重症化すると、あなたや家族の生活が不自由になる

▲特定健診を活かそうパンフレット

**問** 現在までの保険者努力支援制度の成果は。

**答** 国保特定健診の結果、糖尿病性腎症の受診勧奨が必要な数値に該当し、医療機関への受診が確認できない対象者に対